



# 萩の里

黒部市立萩生小学校

学校だより10号

平成31年1月30日

目指す子供の姿 **やさしく** **かしこく** **たくましく**

## できることを大切にする

校長 高岡 薫

1月8日、第3学期の始業式で、各学年1名の代表者が新年の抱負を述べました。6名の子供たちが堂々と発表する態度に感心するとともに、発表内容について心揺さぶられるものがありました。「縄跳びの二重跳びができるようになりたい」「運動神経がよくなりたい」「相撲をがんばりたい」などの運動に関すること、「自学ノートをたくさん書きたい」「国語が苦手だから、克服したい」などの学習に関すること、「家族に料理を作ってもらいたい」「中学校では、小学校で学んだことを生かしたい」などの生活に関すること。どの子も、今の自分をしっかりと見つめ、こんな自分になりたいという目標を持っていることが大変素晴らしいと思います。「今できなくても、できるようになるまでがんばりたい」「できる自分を目指して挑戦していこう」という意欲や向上心こそ、誰もが見習わなくてはならないことだと感じました。

一方、あるテレビ番組の中で、次のような会話が耳に残りました。

Q：みなさんは、どんな仕事に就きたいですか。

A：自分のやりたいことができる仕事に就きたいです。

Q：それはなかなか難しいことですが、自分がやりたくない仕事はしないのですか。

A：はい、自分がやりたくない仕事はしたくありません。

この会話から、「やりたいこと やりたくないこと」の基準で物事を考えている様子が見て取れます。その番組では、その基準だけでなく、「できること できないこと」という基準で物事を考えてみてはどうかという話をしていました。つまり、「ゲーマー」「ユーチューバー」という仕事に就きたいと思っている若者が多くいる昨今ですが、もし百年前に生まれていたら、その仕事はなかったのだから、自分のやりたいことは偶然的なものであるということでした。ところが、自分のもてる力を存分に発揮し、「できること」で社会貢献していくことは必然的であり、大切なことであるとも伝えていました。

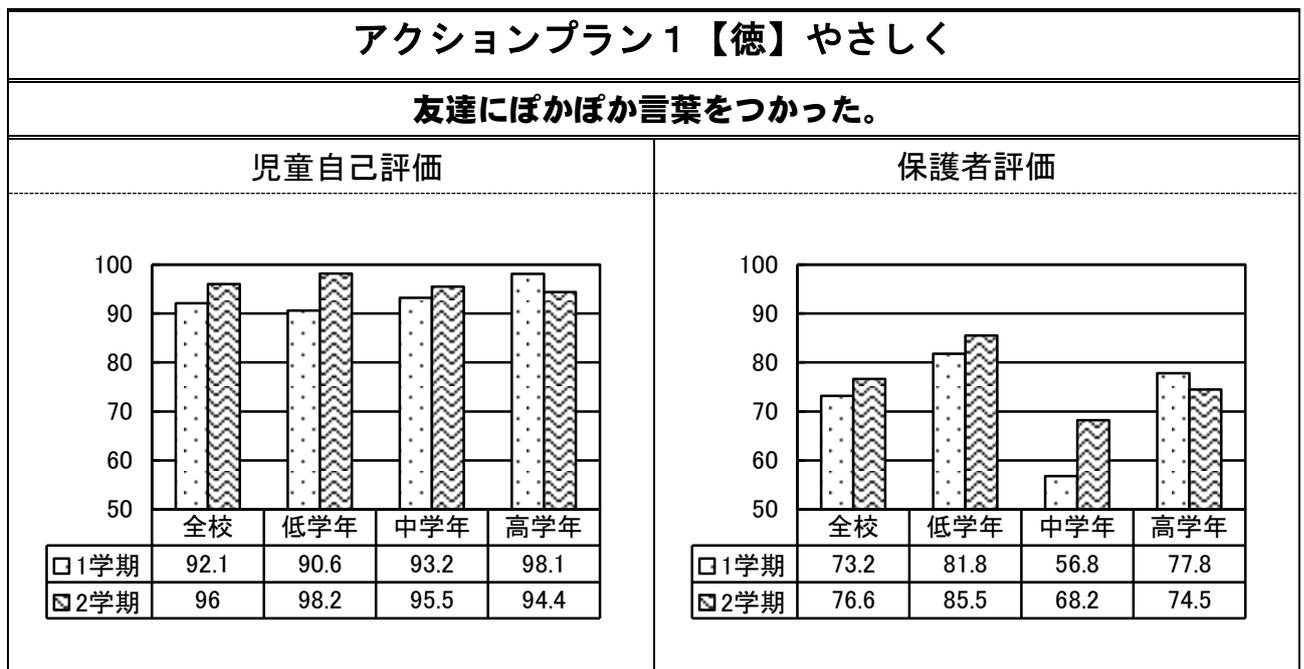
そう考えると、新年の抱負を語った6名の子供たちは、「できること できないこと」の基準で物事を考えていると捉えてよいと思います。「自分がやりたいこと」だけでなく、「自分にできること」または「できるようになりたいこと」に取り組み、自分の力を高めようと考えています。しかし、毎日の学習や生活の中で、常に意欲や向上心をもって生きることは、ある意味大変なことです。それを乗り越えるには、どうしたらよいのでしょうか。

先日行ったスキー練習会で、まさにその場面がありました。もちろん、スキーの得意な子もいれば、初めてスキーをするという子もいますが、どの子も「上手に滑りたい」という気持ちは同じでした。どのグループにおいても、指導者の方の教えをしっかりと聞いて学ぶとともに、友達と互いに声を掛け合い、助け合う姿が多く見られました。転んでも起き上がる、友達に追いつこうと必死に滑る、指導者の方に助けてもらって「ありがとうございます」と大きな声で挨拶をしているなど、友達や指導者の力が大きな支えとなっていることは明らかでした。

「できるようになるまで粘り強く取り組む」ためには、「友達の支え」「家族・地域の支え」「学校の支え」が必要です。子供たち一人一人が向上心をもって、学年のまとめに取り組むことができるよう、家庭との連携を深め支援していきたいと思います。



アンケートの数値結果から、子供たちは「自分は挨拶をしている」という気持ちはあるようです（1学期93.4%、2学期92.2%）が、毎朝、挨拶運動をしている人たちの横を通ることで挨拶をしていると思っているのかもしれませんが。一方、声が小さく自分から進んで大人に挨拶をしていく児童が少ないことから、保護者の評価は低いです（1学期73.2%、2学期76.6%）。今後は、なぜ挨拶をするのかという挨拶の意味をよく考えさせたり、自分がどのような挨拶をしているのかを意識させたりすることで、自分も相手も気持ちが良いと思える挨拶の仕方を身に付けられるように働きかけていきたいです。



※保護者の設問は、「あいさつをしたり、やさしい言葉遣いをしたりしている」で評価の数値を出してあります。

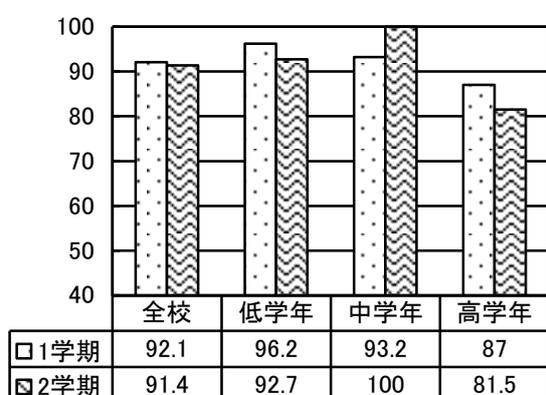
#### 考察・方策

- ぼかぼか言葉に関しても、各クラスで、使ってほしいぼかぼか言葉を出して、児童玄関に掲示し、計画委員会が呼びかけました。ぼかぼか言葉を使おうとする児童が増える一方で、保護者の意見には、言葉遣いがよくないということが学校評価のアンケート等であげられていました。学校生活の中でも、よくない言葉遣いが原因でけんかになることもありました。そこで、2学期は保護者の方にもご協力をいただき「ぼかぼか家族大作戦」の取組を行いました。この取組を契機に、家でも学校でも言葉遣いを見直して気を付けようとする児童が増えてきました。児童、保護者のどちらも1学期よりも2学期の評価が上がったのは、そのような取組の成果と考えられます。低・中学年では特に数値を上げることができました。今後も好ましい人間関係を築いていくために、挨拶を含めたよりよい言葉遣いができるようにさらに指導していきたいと思えます。

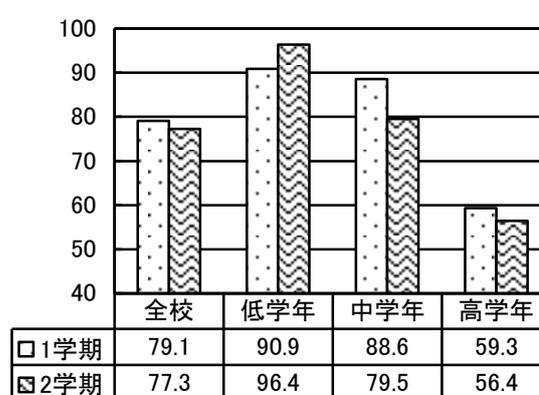
## アクションプラン2【知】かしこく

### 家で（10分×学年）以上勉強している

児童自己評価



保護者評価

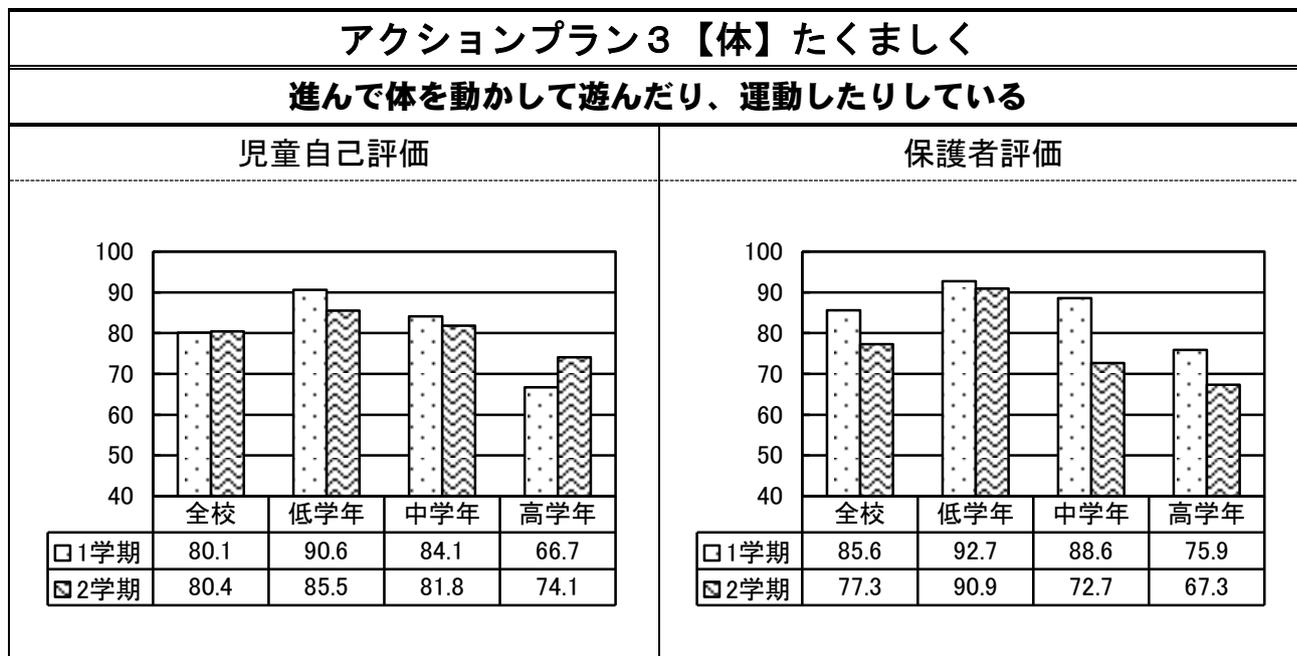


### 考察・方策

- 2学期の振り返り週間では、1学期よりやや下回りましたが、約91%の児童が「学年の目標時間以上、家庭学習をした」と答えました。学年間で若干の違いはありますが、概ね目標は達成されているものと思われます。その要因としては、このアンケートを行ったのが、2学期の学習のまとめの時期だったということもありますが、自学ノートを使った家庭学習が定着していることが考えられます。この取組は、今年で5年目になり、子供たちの中に「家庭学習＝宿題＋自学」という意識が根付いているのだろうと考えます。年に5回実施している「家庭学習がんばり週間」でも、毎回土日を含め毎日自学ノートに取り組んでいる子供が6割以上います。目当てに向かってコツコツと頑張る荻っ子の姿が伺えます。また、自学ノート7冊達成者の表彰も、年を追うごとに増えています。（H26→15人、H27→50人、H28→79人、H29→83人）今年度もたくさんの子供たちに金メダルシールを渡したいと思います。
- 保護者の評価を見ると「よくできている」の結果が、全校で約77%と児童の評価より10%以上低くなっています。昨年は20%以上の開きがあったのと比較するとその差は縮んでいますが、まだ大きいです。特に高学年では、児童と保護者の評価の差が今年も約25%あります。高学年になると、スポ少や習い事等もあり、自由に使える時間が少なくなります。その限られた時間の中で1時間程度の家庭学習を毎日継続することは難しいのだと思います。また、ゲーム等のメディアに時間を割いていることも考えられます。反対に、低学年では、児童よりも保護者の方が4%程高くなっています。これは、今までになかったうれしいことで、保護者から見て



も、子供たちが家庭でしっかりと学習に取り組んでいるのだらうと思います。今後も、子供たちが意欲的に、家庭学習に取り組んでいけるよう認め励ましていきたいと思っています。



### 考察・方策

・2学期の振り返り週間では、全校で80%の児童が、「よくできた」と答えていますが、アンケートをした時期が寒い時期だったこともあり、1学期より外で遊ぶ機会が少なく運動をしたという実感がないことが考えられます。冬場の運動である縄跳び運動が定着すれば、運動の習慣がさらに促進するものと思われる。

冬場は毎日コンスタントに運動することが難しくなります。保護者の声にも「楽しく体を動かせるスポーツを増やしてほしい」という要望や「みんなでチャレンジ3015の取り組み方の説明がほしい」などの意見もありました。皆様からいただいたご意見を参考にしながら、引き続き、冬場における運動機会の確保と充実に取り組んでいきたいと思っています。





## 1月の児童活動

【3学期始業式：新年の抱負発表】

【校内書初大会】



【スキー練習会】



【スマイルスマイル集会】



- 1日（金）児童集金口座振替日、フレンド集会（給食委員会）
- 4日（月）3学期ふれあい週間（教育相談）～15日（金）  
3学期家庭学習がんばり週間～8日（金）  
明峰中学校制服展示～8日（金）
- 5日（火）学習参観、学級懇談会、中学校進学説明会
- 7日（木）1年生と年長児との交流会
- 8日（金）フレンド集会（2年生）、校内縄跳び大会、委員会活動
- 11日（月）建国記念の日、富山県小・中・高校生書初大会
- 13日（水）リサイクル活動（アルミ缶、ペットボトル、エコキャップ回収）
- 15日（金）授賞集会
- 22日（金）6年生を送る会 13：15より 体育館
- 25日（月）不審者対応避難訓練
- 27日（水）リサイクル活動（アルミ缶、ペットボトル、エコキャップ回収）

